「ものづくり・デザイン科」学習資料

わたしたちのまちの伝統工芸

高岡銅器と高岡漆器

菊花文飾壷（銅器）

二尺鯛菓子器（漆器）

©Fujiko-Pro

わたしたちのまわりには、銅や漆などで作られた伝統工芸品がたくさんあります。

伝統の優れた技術をもつ職人さんが天然の材料を使い、心を込めて手作りする伝統工芸品に触れると、わたしたちにもその心が伝わってきます。だから今も伝統工芸品を愛する人がたくさんいるのです。

高岡市の伝統的工芸品『高岡銅器』と『高岡漆器』の歴史や、くらしとのつながりを見ながら、伝統工芸について、これから少し勉強してみることにしましょう。

高岡市教育委員会
(公財)高岡地域地場産業センター
伝統工芸高岡銅器振興協同組合
伝統工芸高岡漆器協同組合

伝統的工芸品について

伝統マーク18−088®

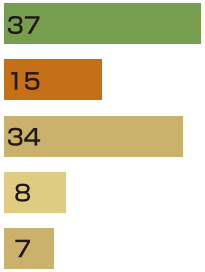
［伝統マーク］
経済産業大臣指定伝統的工芸品には、伝統マークを使った伝統証紙が貼られています。

伝統的工芸品は、昔から伝わる技術を用い、天然の材料を使って主に手で作られるものです。日本には1000品目以上ありますが、国が法律を作って保護・育成している「伝統的工芸品」は、241品目（令和5年10月現在）あります。

富山県では、高岡銅器、高岡漆器、越中福岡の菅笠、井波彫刻、越中和紙、庄川挽物木地の6品目が指定されています。

伝統工芸士について

［富山県のおもな伝統工芸士の人数］



「経済産業省ホームページより」（令和5年10月現在）

伝統的工芸品の大部分は手作りで、良い製品を作る時には高い技術が必要です。しかし、技術を身につけるまで長い年月がかかります。また、昔に比べて生活様式が変化したことで、伝統的工芸品を使うことがだんだん少なくなってきました。そのため、後継者や新しい作り手を育てることが大切になり、国では「若者にやりがいと目標を与える仕組み」を考え、伝統的工芸品や用具、工芸材料の製造に従事する人を対象に「伝統工芸士認定試験」を行い、合格者を「伝統工芸士」に認め、奨励しています。

有名なこのふたつも高岡銅器と高岡漆器の代表作です。

高岡銅器の伝統技術を集めた【高岡大仏】

高岡漆器の伝統技術を集めた【高岡御車山】

小学５年	組	氏　名
小学６年	組	
中学１年	組	

2024.5

高岡銅器
Takaoka copperware

高岡銅器のはじまり

高岡銅器のはじまりは、江戸時代（西暦1611年・慶長16年）までさかのぼります。このとき、前田利長公が高岡に城を建て、城下町を築こうと鋳物師を呼び寄せ、現在の金屋町に鋳物工場を開かせました。最初は鍋や釜などの日用品や農機具などの鉄鋳物を中心に作っていました。江戸中期には釣鐘や燈籠などの銅鋳物が作られるようになり、その後、仏具や花びんなども盛んに作られて、高岡の産業としてどんどん発展していきました。

高岡銅器のもっとも有名なものとして高岡大仏があります。この大仏は20年あまりの歳月をかけて、昭和8年（1933年）に完成した銅鋳物の超大作です。

高岡銅器は、昭和50年2月に国の《伝統的工芸品》の指定をうけています。

今もくらしの中に生きている

わたしたちの家の中には、花瓶や床の間の置物、仏具などたくさんの銅器があります。また、外には銅像や釣鐘もあります。このように銅器は、さまざまなかたちでくらしの中に生きています。

仏具と仏像（家具調仏壇）

象嵌入青銅製花瓶

鬼面風炉セット（茶道具）

これからの高岡銅器

高岡銅器は伝統の技術を受け継ぎながら、新しい素材やデザインの研究、改良を重ね、新しい商品を作っています。

また、銅器の良さをもっと多くの人々に知ってもらうために、年に何回か銅器を見たり、触れたりできる展示会を開いています。

真鍮製風鈴

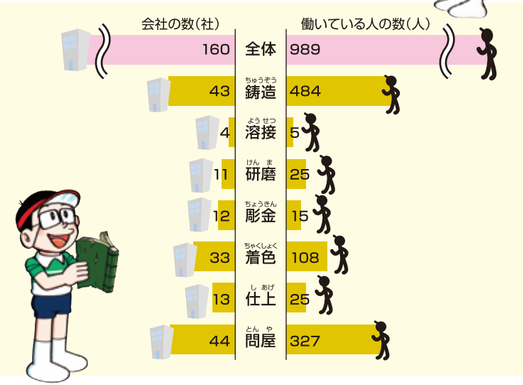
アルミ製靴ベラ

真鍮製手洗い

時代にあった、新しい商品もどんどん作られているよ。

数字で見る高岡銅器

高岡銅器の会社の数と働いている人の数



高岡銅器の販売額はどのくらい？

高岡銅器の販売額は全体で約100億円。

※「高岡特産産業のうごき　令和4年度版」参照

銅器ができるまで
銅像（焼型）の場合

①原型
粘土や石膏を使って作ります。原型はデザインやスタイルが大切なため、有名な作家に依頼することもあります。

②鋳型づくり
原型を粘土分が多い土で固め鋳型をつくります。これをいくつかに分けて中の原型を抜き取り、中子型（銅像の空洞部）を入れ、再び型を合わせます。

③鋳込み
鋳型を乾燥させてから高温で焼き、約1200度に溶かした銅合金を流し込みます。鋳込みは銅器づくりの中で一番むずかしく危険も多い工程です。

④型ばらし
流し込んだ銅合金が冷えるのを待って、鋳型をはずします。これで原型と同じ形のものができます。

⑤彫金・着色・完成
鋳型をとりはずした鋳物に、溶接、研磨、彫金、仕上げ、着色などをして完成です。

高岡漆器

Takaoka lacquered ware

高岡漆器のはじまり

高岡漆器のはじまりは高岡銅器とほぼ同じ江戸時代（西暦1609年～1614年・慶長14年～19年）です。

当時、城下町として栄えつつあった高岡へ移り住んできた人々の中の塗師（漆器の職人）といわれる人たちが、たんす、膳などの生活用具や家具に漆を塗ったことから、高岡漆器がはじまりました。やがて中国の技術が伝わり、いろいろな技法が生まれました。中でも彫刻塗や青貝塗、勇助塗の技術は高岡を有名な漆器産地として発展させました。高岡御車山の美しい飾りにも、この優れた技術が残されています。

昭和50年9月には、国から《伝統的工芸品》の指定をうけています。

今もくらしの中に生きている

お茶碗をのせる茶托、お菓子をのせる菓子皿やそれらを運ぶお盆など身近なところで「高岡漆器」が使われています。

洋風化するわたしたちの生活様式のなか、日本古来の生活文化を大切にして「日本人らしさ」を受け継いでいきましょう。

胴張銘々皿　桜

八角飾皿　花鳥　彫刻塗　手鏡

干菓子盆　鯛彫　小箱　古代朱　桜

これからの高岡漆器

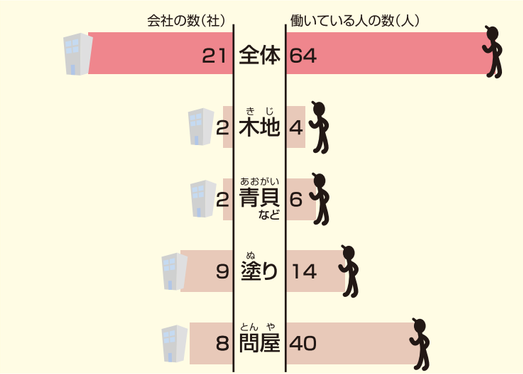
日本を代表する工芸品として「漆器」は英語で「ジャパン」と言われてきました。高岡漆器は優れた漆塗りのデザイン・技術を、もっといろいろなものに応用できないものかと全国の会社やデザイナーに呼びかけて研究を進めています。そして、今の様式に合った商品の開発に力を入れています。

宝石箱　錆絵花鳥木蓮

生活に合わせて、新しい使い方がいろいろ考えられているんだよ。

数字で見る高岡漆器

高岡漆器の会社の数と働いている人の数



高岡漆器の販売額はどのくらい?

高岡漆器の販売額は全体で約3億円です。

※「高岡特産産業のうごき　令和4年度版」参照

漆器ができるまで

おぼん（彫刻塗）の場合

①木地・下絵

つくる物の形を作り整えます。木地づくりには主に木材が使われます。そしてできた木地に下絵をかきます。

②彫刻

木地に、何種類もの彫刻刀で、ていねいに下絵どおり彫刻をします。

③塗り・研ぎ

彫刻が終わった木地に下地塗りを行い、乾いたら木炭や石で研ぎます。その後、中塗り、上塗りまで、塗りと研ぎをくり返し行います。

④彩色塗り

いろんな色の漆を使って、彫刻をした部分に色を付けます。

⑤磨き仕上げ

漆が乾いたらもう一度研ぎ、古味付けをした後、布などで磨いて光らせて完成です。